

# 最も高地の水準点探し

高さの基準となる水準  
点は道内に約三千三百カ所あるが、そのうち最も高い地点にある石狩管内浜益村の山中に眠る水準点を見つけ出そうと札幌

れていなが、明治から  
大正時代にかけ留萌と札  
幌を結んだ主要街道沿い  
にあり、「埋もれた標識  
の歴史に光を当てたい」  
と張り切っている。

# 員ら 山道に たどる

標高は一〇三七・八尺。  
一九〇七年（明治四十  
年）、江戸末期に開かれ  
た浜益と増毛を結ぶ増毛  
山道の道沿いに設置され  
た十五の水準点の一つだ  
が、山道が陥しすぎるた  
め大正末期ごろから使わ  
れなくなり、水準点の存  
在も忘れられてしまつ

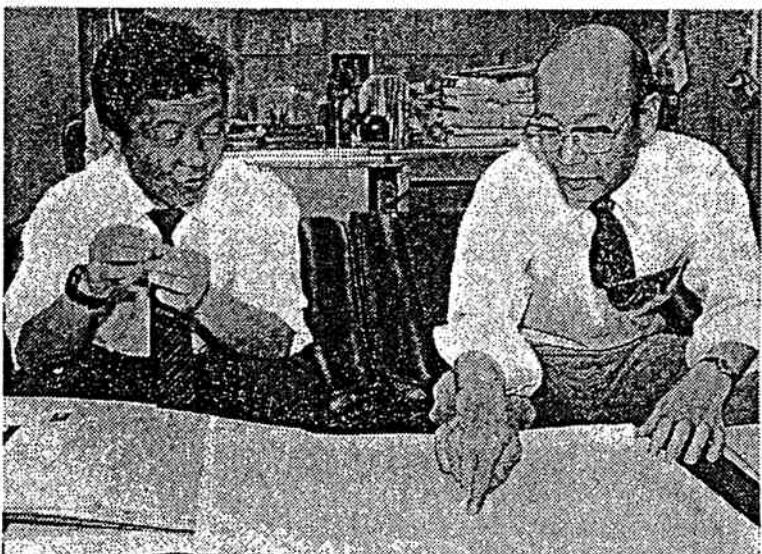
道を開いた漁場請負人、伊達林右衛門の末えい、伊達東さん(べ)ニ会社員、札幌在住ニヒ、浜益村の黄金山岳会の渡辺千秋さん(せんじゅ)ニ自営業ニも参加する。

殿(標高一〇三八メートル)の頂上近くにある「一等水準点」で、

# 国土地理院職員ら あす旧増毛山道に 先人の足跡たどる

じのことを知った国土  
地理院北海道地方測量部  
(札幌)の小玉良雄さん  
(五)と同前島孝夫さん  
(五)、同地理院地図七二

タ」、桜井勝治さん(五三)  
「会社員」が「消えた街」  
道のササヤブに眠る先人  
の足跡を探し出したい」  
と、昨年春から現地を歩  
き下調べを続けてきた。



す。小玉さんは「ぜひ  
つけ出して山道を復活  
せぬか?」かけこしたく  
と話している。

地図を前に道内で最も高い場所にある水準点に思いをはせる小玉さん(右)と前島さん

# 旧增毛山道を散策路に



# 札幌の開拓者の子孫、調査

大正末期まで、留萌管内増毛町と石狩管内浜益村を結び、その後歴史に埋もれていた「旧増毛山道」を復旧させようと、札幌市内に住む山道開拓者の子孫を含む山岳会員が山道跡の調査を続けている。十一月までに全二十キロ余りに及ぶ調査を終える見込みで、関係者は「いずれ自然散策路として復活を」と意欲を見せて いる。

旧増毛山道は江戸末期の六〇トメ(六〇馬力)なじ(暑寒別山系の)未開の山を越え、増毛町別荘に至る全長二一・五キ、幅約一五のなだらかな山道。かつては「メ、塩や日用品の運搬路、旅の要路と商の伊達林右衛門が松前藩の命を受け、私費を投じて三年がかりで切り開いた。

一年秋に海岸側を通る国道  
231号の歩古丹一大別苅  
間が開通した際、自宅に眠  
つていた古文書「北海道伊

回、やが茂る夏季を外し、比較的視界がさく春と秋に限り、入山している。

調査は増毛側からスタート。た。

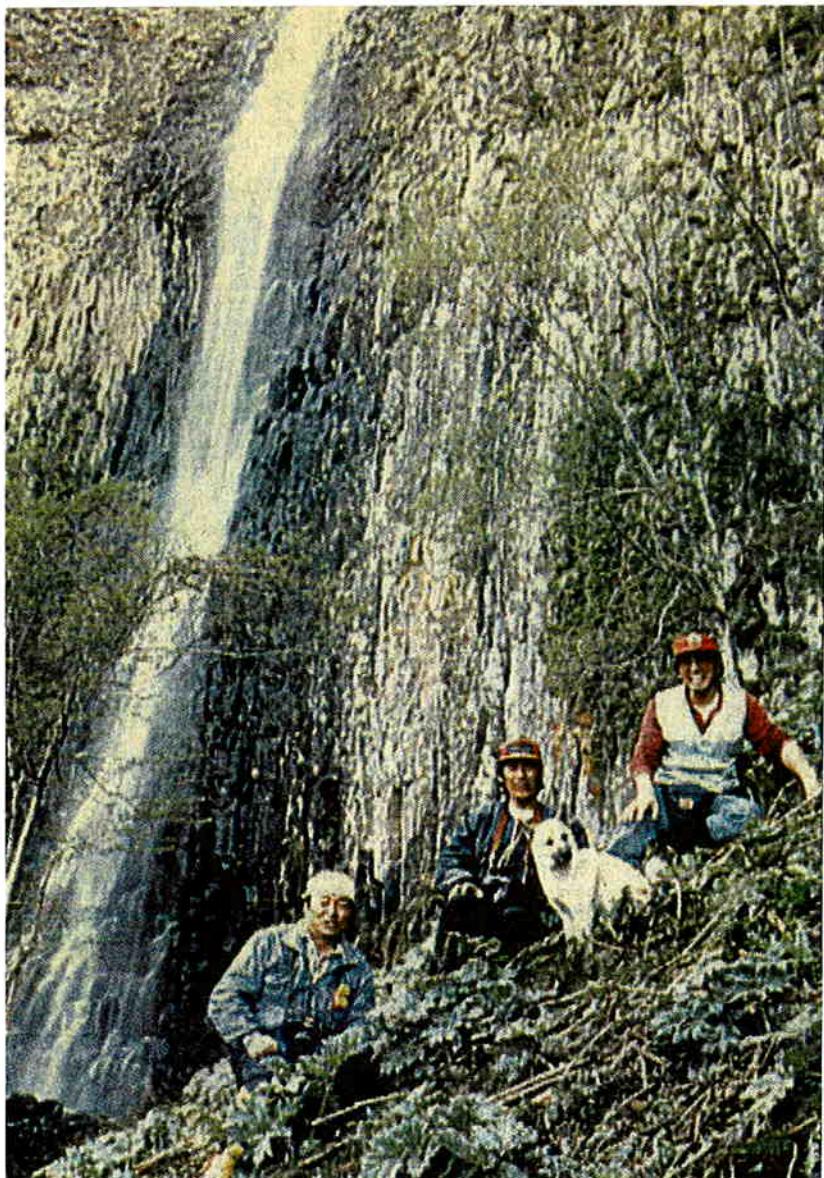
古い地図頼りに痕跡探る

20  
キロ、11月に完了

浜益村幌を起点に、浜益して栄え、馬車が行き来し  
御殿（標高一、〇三八m）、達家履歴に記述され  
雄冬山山頂近く（同一、〇 なくなり、竹やぶに埋もれ  
たままとなっていた。  
うとしていた同村のこがね

やぶをかき分け、旧増毛山道の道跡を調べる山岳会員＝6月 たまごとなつていた。伊達林右衛門の子孫で、札幌市中央区在住の自営業者伊達東さん(62)が、一九九〇年六月に結成された山岳会(武田秀秋会長)に入会。九三年春から地元会員とともに道跡を調べてき

今後は壇上町の山岳会や  
両町村などに呼び掛け、や  
ぶの切り払いなど山道復旧  
に向けた動きを本格化する  
方針だ。



今年も雪解け水で美しい姿を現したペリカの滝=大嶋和敏さん撮影

## 雪解けの時期だけ滝は現れる

**増毛**

【増毛】雪解けの今季節にだけできる幻の滝「ペリカの滝」が今年も留萌管内増毛町に姿を現した。

増毛山岳会(近江亭会長)の大嶋和敏さん(四十五)、会社員、野上泰宜さん(四十七)、会社役員、村田勝義さん(四八)、消防職員の三人

が、このほど写真に収めた。

説明されている。水源は天同町岩尾の国道231号天狗岳(九四四メートル)と推測されると、普通の地図には記載されていない。

新緑の中を進むと突然、荒々しい断崖(だんがい)の岩肌を走る落差六、七十メートルの滝が視界に飛び込む。増毛町史によると、「ペリカ」はアイヌ語で「割れうため、見られるのは

国道からは見えず、険しい一時間。険しい沢を登り、乗つて沖合に出ないと眺められない。雪解けが終わると水が枯れてしまふため、見られるのは六月いっぱいまでとい



浜益村字幌の幌神社山道と社殿  
社殿右手側より山道に入る

少林道

少増毛山道 路跡



三等三角点“幌野”南 180m 附近の 旧増毛山道と林道



增毛山道中  
三等三角点 '幌野.'  
H307m





増毛山道（浜溢側より）H300m 附近 三等三角点“幌野”上のホール



H300m 三等三角点“幌野”横の  
増毛山道



浜益側より、浜益御殿へ向う H800m附近 残雪の下は根曲リケ



浜益側より、ザ 浜益御殿へ向う H900m附近、目印を付ける 前島枝官



汚れを落した水準尺



山道の水準尺は明治の測量官  
高野良哉の手によって行はれた



鶴養土、30cm下に埋もれていた木塚鬼



地理院(道) 恵玉氏



発見を喜ぶ、地理院の前島、恵玉氏  
「面白かった、奥がかった」と



道内の最高点をもつ水準点(高い方の代表点)を発見する事は  
北海道地方測量部の永遠の願いであった。....別海町の最低点は未発見  
 $90\text{cm}$



浜益御殿  
増毛山道



山道入口の標識向いに  
津田屋会館あり





増毛町史。増毛山道に建てられた延命地蔵を収めている 海音寺

